

読売理工医療福祉専門学校

学校関係者評価 報告書

「2016 年度」

2016 年 7 月 30 日

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価

学校関係者評価では、学校が、卒業生・保護者・地域住民・企業役職員等の関係者を委員に選び、「学校が実施した2015年度の自己評価結果の報告」と「2016年度の取り組み」に対する評価を依頼する。委員は以下の項目について評価し、教育活動と学校運営の改善に向けて学校に助言する。

- ・自己評価の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- ・学校の重点目標や具体的方策が適切かどうか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか

2. 2016年度 第1回学校関係者評価委員会の実施

2015年度の「自己評価報告書」を事前に委員に送付した上で委員会を開き、評価項目毎に結果を報告した後、委員の方々に評価とご意見・ご提案を頂いた。続いて、16年度の重点目標と取り組み状況について報告した。

- ・開催日時：2016年7月30日（土）午後2時～4時
- ・場 所：読売理工医療福祉専門学校 402 教室

3. 学校関係者評価委員会委員

【委員】

- ・渡部 俊一：卒業生 校友会副会長
- ・風間 正弘：保護者 建築学科学生の保護者
- ・湯浅 孝雄：地域住民 慶応仲通り商店会会長
- ・羽場 宏祐：企業等 放送映像学科 (株)インターナショナルクリエイティブ取締役最高顧問
- ・鹿毛 信一：企業等 建築系学科 河端建設(株)工事部長
- ・武田 知明：企業等 電気電子学科 東邦電計(株)営業部長
- ・笹口 友美：企業等 臨床工学系学科 北里大学北里研究所病院・看護部
- ・大庭 尚子：企業等 介護福祉学科 港区立特別養護老人ホーム港南の郷・保健課長

【学校側】

- ・千葉 康文：理事長
- ・渡邊 敏章：校長
- ・尾林 徹：校長補佐
- ・菅野 敬祐：校長補佐・臨床工学系学科長
- ・黒田 幸弘：建築系学科長
- ・角田 浩二：電気電子学科学科長
- ・水落 清治：放送映像学科学科長
- ・曾我 辰也：介護福祉学科学科長
- ・豊田 正敏：参与
- ・天野 誠一：法人本部長
- ・佐伯 和宏：事務局長
- ・久保 真樹：総務室課長

(敬称略・順不同)

4. 委員からの意見・提案（評価点：4点満点）

[1] 2015年度の取り組みに関する意見

（1）教育理念・目的・育成人材像等（3.71）

- ・校舎1階の入り口に、「挨拶しましょう」と張り紙をしてある。学生たちにアンケートを採り、張り紙に気がついているかどうか、効果の有無を評価すべきだ。
- ・2014年にスタートした「読売式教育メソッド」（人間力、基礎学力、専門力、資格取得力、就職力の5本柱）は定着してきていると思う。社会に出てから必要となるコミュニケーション、報告、連絡、相談といった人間力の開発を促してほしい。
- ・「読売式教育メソッド」をもっと具体化し、社会が求めている人材像を学生に伝えるべきだ。
- ・留学生の受け入れに伴い、「文化的な背景の違いを踏まえた教育」は大変だと思うが、効果的な方策を考えて継続していただきたい。

（2）学校運営（3.71）

- ・校舎を含めた学校施設のインフラ整備を急ぐべきだ。「専門職業大学」の設立も望まれる。
- ・在校生の人数など、とても適切だと感じる。来年度も期待している。
- ・コンプライアンス体制について自己点検システムを導入し、教職員への教育も十分に行うべきだ。

（3）教育活動（4.00）

- ・インターンシップ（就業体験）の難しい学科もあるが、各学科とも改善に努めていると感じる。
- ・カリキュラムを毎年見直し、社会状況及び学生の状況に応じた工夫がなされている。
- ・退学者を少なくする手間も大事だが、職業観が合わない進路変更は無理にひきとめなくても良いと思う。卒業して目的の職業に就いても、結局、長続きしない。

（4）教育成果（3.86）

- ・「読売式教育メソッド」の有効活用として、退学者をなくすには、1年生を2グループに分け、能力に応じた教育をしてはどうか。将来の専門家（マイスター）を育てる意味でも、導入を望む。
- ・就職率、資格取得率が高いのは良い。臨床工学科は、さらに上を目指しており、素晴らしい。
- ・就職率100%達成に向けて、各学科毎に同窓会を用い、卒業生を後々まで面倒みると良い。ストレスのある就職先も多く、同窓会の支援がずっとあることを学生たちに伝えた方が良い。

（5）学生支援（3.28）

- ・留学生を含め退学する前にきめ細かく相談に乗り、解決策を見いだす等の工夫が必要だ。学生とのコミュニケーションの活性化も求められる。
- ・私が学生の時とは社会環境が違い、心の弱い若者が増え、先生方の苦勞を感じる。カウンセリングを増やしたということで、学生の心の状態も良くなって行くのではないかと思う。
- ・「教育環境に合ったアルバイト」を学校が学生に斡旋してみてもどうか。

（6）教育環境（3.43）

- ・将来の専門家（マイスター）を育てる基本教育には2年次、実習時間を若干増やしてはどうか。十数年行ってきたインターンシップ制度は、就職を含め企業との連携に互いに役立っている。
- ・建物が古い割に手入れは行き届いている。学生がきちんと学べる環境作りは必要だ。

（7）学生の受け入れ募集（3.86）

- ・様々なメディアで学生募集の広告を目にすることが多い。少子化の時代を迎え、今後もさらなる工夫が求められる。

- ・優秀な留學生が集まり、日本語の補習も強化して、留學生対応は昨年よりも良くなったと感じる。
- ・留學生が増えているようだが、日本人学生も増やしてほしい。

(8) 財務 (3.57)

- ・少子化で財務状況は厳しいだろうが、学校を改善進化させようとしており、卒業生としてうれしい。専門職大学・短大の設立については応援したい。
- ・学院を運営するうえで、学生募集の目標は何人か。

(9) 法令等の遵守 (3.86)

- ・外部からは分からないが、本部長を中心にご努力されていると感じる。

(10) 社会貢献・地域貢献 (3.57)

- ・夏休みの24時間テレビ(日本テレビ)のボランティアに、学校としてエントリーすべきだ。(→学校周辺での募金活動を例年実施)。
- ・各学科ともボランティアへの参加の評価が「3」だが、校外活動に参加しているので、徐々に良くなると思う。
- ・各学科だけでなく、学校全体で取り組むべき。

[2]2016年度の改善点に関する意見

- ・経営、教育、学生募集のうえでも、校舎の老朽化に伴う新校舎への移転をぜひ実現してほしい。現校舎でのさらなる設備投資は難しいので、新校舎に期待する。
- ・留學生のケアにとどまらず、日本人学生への配慮も充実させ、「専門学校＝職業教育」の強みを前面に出してほしい。
- ・建築学科は本年度は優秀と聞いている。毎年この様に、良い学生の確保をお願いしたい。
- ・ホームページの有効活用をさらに進めるべきだ。

5. 2016年度の重点目標

・1年次退学率の改善

過去3年間の退学率を学年別にみると、どの年もほぼ、2年次以降は一桁台で推移している。これに対し、1年次は10%後半の高い数値となっている。1年次の退学理由の多くは、「学習意欲の減退」や「進路変更」だった。1年次における「学習意欲の向上」「職業意識の向上」を図りたい。

・地域貢献と学生のボランティア活動のさらなる推進

各学科の教育資源を活かし、「社会人対象の生涯学習事業」や「地域連携活動」に取り組む。学園祭などの学校行事やクラブ活動は、地域のイベントと連携して進めたい。

・留學生教育の拡充

留學生の増加を踏まえ、日本語の基本を教える授業の充実を図っている。1年次10月からの「社会人基礎力講座」でも、日本語能力が低い留學生を対象に、日本の地理、交通手段、文化といった実用的な切り口で、会話や作文を教える講座を新設した。さらに、「就職準備に役立ててもらおう」と、4階の就職相談室に「留學生コーナー」を設けた。各学科も、就職指導を一層丁寧に進め、求人企業の開拓に努めている。

6. まとめ

今回の評価で委員の方々からいただいた意見・提案は、次回報告する「2016年度の間評価に対する意見・提案」と合わせ、来年度の学校運営・教育内容に反映させていく。

以上